

第1回スピーチ集会

「海のゴミを減らすには」

3年 大城空也



皆さんは、世界の海にどれだけのゴミが存在していると思いますか？また、どのような種類のゴミが多く流れ漂っていると思いますか？

皆さんも知っているとおり、プラスチックのゴミがとても多く、今現在、海に浮かんでいるプラスチックゴミの量は環境保全団体WWFジャパンによると合計で1億5千万t、そこに少なくとも年間8百万t（重さにしてジャンボジェット機5万機相当）が新しく流れ出てしまっているようです。それが各地の海岸に流れ着き放置され、太陽の熱などによって小さくなり、それらはマイクロプラスチックと呼ばれるものになるそうです。海中のマイクロプラスチックは、取り出そうにもすべて取り出すことは難しいのが今問題になっています。

こうしたゴミを減らしていくには、どうすれば良いか、僕はこれまでの活動を通して考えてみました。皆さんも小学校の行事やクラブで一度は行ったことがあるビーチクリーンです。皆さんもこれまで数えきれないほどのゴミを拾って分別してきれいにしてきたと思います。僕は、この活動は素晴らしいと思っています。しかし、半日頑張ってきたきれいにした海岸も、数日後にはまた同じくらのゴミが流れ着いてしまっていました。その日だけ自分だけできれいにしても間に合わないと感じました。僕はもっとこういう活動を通じて、日本全部、また世界中の人に海のゴミについて考え意識してもらうことが大切だと思うのです。

じゃあ、それをどうやって一人でも多くの人に発信していくか。僕は西表でゴミ拾いツアーやゴミゼロ大作戦など、面白い企画を立てて、観光客などが気軽に参加し一緒に取り組める活動を作れば良いのではないかと考えました。それは参加した人がフェイスブックやインスタグラムなど、SNSを使って活動や西表の現状、ゴミ問題について発信してくれるのではないかなと思うからです。西表には、日本人観光客だけでなく、海外から来る人もたくさんいるので、世界中に発信することができると 생각합니다。僕が4月の後半に森本さんたちが主催するビーチクリーンに参加した時、一人の優しい外国人観光客が僕たちの活動を見て、一緒にゴミ拾いをしてくれました。何も観光客に向けてやったわけでもなく、一緒にやってくださる人がいるのです。僕が提案する「観光ゴミ拾いツアー」にも賛同してくれる人は確実にいるでしょう。

ゴミを一気に無くすことは難しいですが、こういう活動をしているということを知ることにもゴミに対する意識が変わっていくきっかけになると思います。限られた資源をどう大切に使うか、もっとみんなで真剣に考えていかなければなりません。

皆さんもゴミが少なくなる良い方法はないか、どうするとかいう活動を知ってもらえるか、いろんなところから思考をひねって考えてみてはいかがでしょうか？

ゆっくり間を空けて聞かかけていたので、考える時間があつたので良かったと思いました。自分も観光客がやってくれるのを見てすごい人だなと思いました。僕は空也兄の考えに賛成です。（1年東洋希）

私もビーチクリーンに参加したことがあります、自分たちだけでやるのではとてもたいへんだと思いました。観光客の皆さんとできるという空也さんの案はとてもいいなと思いました。スピーチお疲れ様でした。（2年東浜ななみ）

「疑問を自分で調べてみること」

2年 川満 タ

なぜ海は青いのか、なぜ虹は7色なのか、日常の生活の中でこのような疑問を感じたことはありませんか？私たちの身の回りには、たくさんの疑問が隠れています。気候、環境、食べ物、自然など、いつも当たり前に見たり触れたりしているもの、よく考えて見るとそこにはたくさんの疑問があるはずです。ここで皆さんはそのふとした疑問について自分で調べてみたことはありますか？

私は両親がシュノーケリングツアーをやっている関係で小さい頃から海で遊んでおり、ずっとなぜ海はしょっぱいのか疑問に思っていました。そこで今回、この疑問について調べてみることにしました。

海洋政策研究所によると、海水には塩素、ナトリウム、硫黄、マグネシウム、カルシウム、カリウムなどが溶けているそうです。これらのうち、塩素とナトリウムが全体の85%を占めています。この塩素とナトリウムが混ざると塩化ナトリウム、つまり食塩になります。これが海水がしょっぱい原因です。では、なぜ海水に食塩のもとになる塩素とナトリウムが85%も入っているのでしょうか。私は更なる疑問を抱きました。

この疑問を解決するためには、地球ができた頃にさかのぼることになります。今から46億年程前、この頃の地球の表面はマグマ、上空は水蒸気や気体の塩素で被われていたそうです。しかし、地球の温度が下がるにつれて、上空にあった水蒸気は雨となり、塩素を溶かしながら地表に降り注ぎ始めました。塩素が溶けた雨が何日も何ヶ月も何年も降り続け、やがて地表に溜まるようになったそうです。これが海の始まりだと言われています。この時の海はまだしょっぱくはありません。

原始の海は酸性の海だったと言われています。この酸性の海は、アルカリ性の岩石と徐々に反応し、岩石の中に含まれていたナトリウムが少しずつ溶け出して蓄積していききました。つまり、原始の地球の上空にあった塩素が雨に溶けて地表に溜まって海となり、その塩素を含んだ原始の海にナトリウムが溶け、塩化ナトリウムという食塩を多く含む海水ができたということです。

そして、原始の海に溶け込んだ塩素とナトリウムが何億年もずーっと残り続けているので、現在の海もしょっぱいのだそうです。

私は海がしょっぱい理由について調べてみて、46億年も昔にできた海の食塩が今でも残っているということにびっくりし、海水がないと今いる生き物や私の父の職業などはなかったのかも知れないということに改めて気づきました。

身の回りにたくさんある疑問を「不思議だな」って放っておいて調べないのではなく、少しでも調べ始めてみるとすぐ答えを知ることができます。更にそこから思いがけず新たな疑問の発見につながることもなるかも知れません。私たちは、インターネットを使えば世界中の情報を簡単に得ることができるし、図書館の本で正確な情報を調べたり、地域の人に聞いてより身近なことについて調べたりすることだってできます。

みなさんも、身の回りに隠れている疑問について、是非自分で調べてみてください。きっと自分の中での大発見につながるはずです。

自分で疑問に思ったことを調べて新たに出てきた疑問をまた調べていて、すごいなと思いました。私も皆さんのように、自分で疑問に感じたことを調べていきたいです。スピーチお疲れ様でした。

（3年大山史帆里）

今考えれば私たちの身の回りにはたくさんの疑問があることを知りました。確かに私も海がなぜしょっぱいのか、まず疑問にも思わず過ごしてきたので、今日皆さんのスピーチで分かりました。疑問を出し、自分で調べることはとてもいいなと思いました。

（1年仲里和歌子）

基礎力テスト③を実施

30日(木)に第3回基礎力テストを行いました。1年が英語、2年が理科、3年が数学でしたが、今回は残念ながら、結果は思わしくありませんでした。合格(80点以上)率は1年生が90%、2年生が40%、3年生が75%という結果でした。特に合格できなかった皆さんは、次に挽回できるようしっかり頑張ってください。次回は全員合格と行きたいものですね!



1年



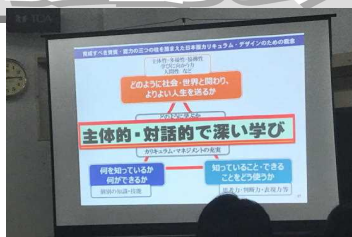
2年



3年

上原地区学推総会

29日(水)に上原多目的集会場で今年度の上原地区学推総会が行われました。池村上原地区連合公民館長のあいさつの後、幼、小、中、地域家庭部の今年度の取組を確認し、最後に竹富町の学力向上推進施策について校長(委員会の代理)より説明いたしました。今年度も学校・家庭・地域が一体となり、上原地区の子どもたちの健やかな成長のため、力を合わせて取り組んでいくことを確認いたしました。



スクールカウンセラーの紹介

30日(木)に今年度の本校担当スクールカウンセラーの岡田啓子さんが来校しました。岡田さんは一昨年も本校の担当だったので、3年生は覚えていると思います。日頃悩んでいることなど、ちょっとしたことでも良いので気軽に相談してくださいとのことでした。月1回の予定で訪問していただきますので、保護者の皆さんでももちろんかまいません、大いにご活用ください。もし、相談をご希望な場合は、担当(養護教諭 蘭村)までご連絡ください。



今週の予定

日	曜	行 事 等
3	月	振替休日
4	火	安全点検日、人権の日
5	水	校長講話、校内研修⑥
6	木	基礎力テスト④、学校保健安全委員会企画部会
7	金	町ホームステイオリエンテーション
8	土	
9	日	町民球技大会